

令和3年度「地域運動部活動推進事業」 成果報告書

令和 4年 2月
福井県ボート協会

地域の基本情報

◆美浜町

- ・人口 約9,000人
- ・面積 152.35km²
- ・学校数 1中学校 3小学校

◆美浜中学校

- ・生徒数 209名
- ・運動部活動数 7種目

◆美浜中学校ボート部

- ・部員数 21名
- ・活動日数 平日4日(90分) 休日1日(180分)
- ・主な参加大会 全国中学校選抜大会、全国中学校選手権大会

◆実施する地域の特徴的なスポーツ環境等

三方五湖の5つの湖のうち、日向湖と久々子湖を有し、ボート競技(漕艇)に関しては、昭和43年の1巡目国体以降、久々子湖での恵まれた競技環境の中で半世紀以上にわたって普及拡大、競技力向上に取り組む。

近年は、同競技の西日本拠点として、各カテゴリーの全日本代表合宿地として注目されている。



ボート協会

- ・設立 昭和37年4月
- ・会員数 152名 (令和3年4月現在)
- ・選手登録者数 128名 (令和3年4月現在)
- ・協会の主な事業
主催大会: 福井レガッタ・全国中学校選抜大会
強化事業: 国体強化事業・タレント発掘事業・日本ボート協会強化拠点事業 他

ボート協会のこれまでの取り組み

- ◆各高の一貫指導については、数十年前から取り組んでおり、国体では県内最強選手で構成する「福井選抜チーム」の選考が定着し、男女総合得点の獲得に大きく貢献している。

一貫指導体制の課題

- ◆近年、高校間(進学系と実業系)でも、部活動に費やす時間に格差が生じており、強化事業の連携に支障を来す事が多くなってきている。
- ◆中高の一貫指導については、中学校の優秀選手を早期に高校の練習に参加させているが、義務教育下の中学ボート部との連携が年々難しくなっており、戦略的な継続強化に繋がっていない。
- ◆日常的に、指導者(競技経験者)が不足しているうえ、自チームの強化に特化した指導となっている。また、中高一貫指導に専念したり、ジュニアからシニアまで幅広い世代を専門的に指導できる体制がない。
- ◆「ボート教室」では、現役選手やOBが中心となり指導を行っているが、単発であり継続的な指導体制となっていない。

地域の指導体制の課題

- ◆美浜町内には、総合型クラブチームが存在しておらず、地域での受け皿や地域で支える体制が整備されていない。

アスリート育成に特化したクラブチームの立ち上げが急務

「福井ジュニアローイングクラブ」の設立準備

- ◆現状では、指導者が圧倒的に少ないため、競技種目を優先するしかなく、長期的な選手育成を視野に入れた指導に割く時間とマンパワーが絶対的に不足している。

幅広い世代の選手育成に特化した専門指導員を専属で配置し、長期的な戦力確保と選手の育成・強化を戦略的に行う必要がある

「地域運動部活動推進事業」内容

今後、全国で働き方改革・部活動の改革が進む中、ボート競技については、特に少子化に伴う競技人口の減少や指導者の確保が課題となっている。

「ボートの町美浜」として町を挙げて競技振興に取り組むボート競技について、小中学生を対象としたクラブチームを立ち上げ、選手育成を図るとともに、拠点校における休日の地域運動部活動の実践をとおして、持続可能な運動部活動の在り方を検討する。

◆活動内容

- クラブチームの立ち上げおよび、クラブ運営の研究
- 小中高一貫指導体制の再構築と、指導理念の共有推進
- 競技人口確保に向けた活動の積極的参加 等

◆実施回数

- 令和3年度 1回/月 → 徐々に実施回数を充実

「福井ジュニアローイングクラブ」の設立

福井県のボート協会がジュニア世代の競技力向上を目的とし、令和3年4月に「福井ジュニアローイングクラブ」を設立。

【基本理念】

ボート競技の普及推進と、ジュニア選手の健全育成を実現し、地域スポーツ振興に貢献する。

組織運営体制

クラブ職位	県ボート協会職位
代表	理事長
副代表	事務局長
事務局長	事務局次長
オブザーバー	強化部長(U23統括コーチ)
	強化部副部長(日本ボート協会タレントマネジャー)
	普及部長(タレント発掘担当)
チーフコーチ	3名(全国大会優勝・日本代表経験者)
サポートコーチ	2名(全国大会優勝・中学校部活動顧問)

「福井ジュニアローイングクラブ」活動状況

活動実績

実施日	実施内容	開催場所	指導者	選手	保護者	合計
4月11日	ミーティング	県立艇庫	5	0	0	5
5月12日	保護者説明会	県立艇庫	5	0	12	17
5月15日	ミーティング	県立艇庫	5	0	0	5
6月12日	ミーティング	県立艇庫	5	0	0	5
6月26日	2級小型船舶操縦士免許講習会	講習会場	4	0	0	4
7月18日	2級小型船舶操縦士免許試験	試験会場	4	0	0	4
8月7日	ミーティング	県立艇庫	5	0	0	5
8月28日	ミーティング	県立艇庫	5	0	0	5
9月19日	ミーティング	県立艇庫	5	0	0	5
9月26日	体験会	県立艇庫・久々子湖漕艇場	5	18	15	38
10月24日	練習	県立艇庫・久々子湖漕艇場	3	13	0	16
11月7日	練習	県立艇庫・久々子湖漕艇場	3	9	0	12
11月23日	練習艇リギング	B&G艇庫	4	0	0	4
12月5日	練習	県立艇庫・久々子湖漕艇場	4	10	0	14
1月16日	練習	県立艇庫・久々子湖漕艇場	5	8	0	13
2月11日	ミーティング	県立艇庫	5	0	0	5
2月27日	練習(予定)	県立艇庫・久々子湖漕艇場				0
3月13日	練習(予定)	県立艇庫・久々子湖漕艇場				0
3月30日	活動報告会(予定)	県立艇庫				0
合計			72	58	27	157



アンケート調査概要(抜粋)

◆参加選手

「専門的な指導を受けられる」「練習が楽しい」「成長を感じる」等、**満足感を得ている選手が多い**一方、「練習がきつい」「休みたい」等のネガティブな意見もある。

◆保護者

「専門的指導」「運動・体力の向上」を重視する保護者が多い中、部活動とクラブ活動の取り組み内容の差や、**応分の参加者負担はやむを得ないと認識されているものの、経済的負担を心配される保護者が多い。**

◆指導者

指導者の多くが、「指導者としての使命・やりがい」を感じており、**地域貢献や子供の成長に喜びを感じている。**



実質、半年間の活動となったが、活動については一定の評価を得ているものと推察される。

「福井ジュニアローイングクラブ」活動の課題

項目	課題	具体的対策・検討
活動運営	<ul style="list-style-type: none"> ◆ <u>保護者負担額増に対する理解活動の展開</u> ◆ スポンサー企業の模索 ◆ 公的補助金の継続受給の模索 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ <u>保護者説明会での理解活動の実施</u> ◆ スポンサー企業の募集と勧誘活動 ◆ TOTO補助金等の公的補助金の情報共有
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ◆ <u>指導者のスキル向上と公認資格の取得</u> ◆ <u>活動日数増にともなう指導者数の拡充</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ <u>コーチ I の取得と県内指導者とのスキル共有</u> ◆ <u>サポートコーチ、女性指導者の更なる養成</u>
強化体制	<ul style="list-style-type: none"> ◆ <u>中高一貫指導体制の更なる連携強化</u> ◆ <u>指導スキル・メソッドの共有</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ <u>有力選手の情報共有とスカウト活動の展開</u> ○ <u>選手の学力に応じた進学先との連携</u> ◆ <u>日常指導の連携と交流イベントの実施</u> ○ <u>日常練習を通じた指導連携</u> ○ <u>中高生との合同練習を実施し、高校指導者や選手が中学生を直接指導する場を提供</u> ◆ <u>全指導者を対象とした指導者ミーティングや、定期的な指導者講習会の実施</u> ○ <u>共通スキルの共有と更なる向上、指導者間のスキルの格差是正</u>
普及活動	<ul style="list-style-type: none"> ◆ <u>県域での部員増を目指し戦略的な展開</u> ◆ マスメディアを通じた広報活動の展開 ◆ <u>SNSを通じた広報活動の展開</u> ◆ <u>タレント発掘事業の展開</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ <u>県保健体育課、県スポーツ協会の選手発掘イベントの参加</u> ◆ <u>各小中学生への募集チラシの配布</u> ◆ 地元紙の取材や地元TV局への特番の打診 ◆ タウン誌への募集広告掲載の検討 ◆ <u>活動内容の積極的紹介と拡散</u> ◆ <u>タレント発掘事業の一を通じたPR・募集活動</u>

「地域運動部活動推進事業」の課題

項 目	課 題	具体的対策・検討
地域移行	<ul style="list-style-type: none"> ◆ <u>拠点校指導者と受け入れ団体指導者との連携強化</u> ◆ <u>新規受け入れ団体の模索</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ <u>拠点校指導者と受け入れ団体指導者との理念やスキルの共有、相互のレベルアップが必要</u> ◆ <u>県と自治体が連携し、新規受け入れ団体の育成とマッチング支援等を展開し、地域で受け入れ易い素地づくりが必要</u>
課題解決	<ul style="list-style-type: none"> ◆ <u>自治体、拠点校、受け入れ団体との連携強化</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ <u>定期的な会議体の開催や、日常の意思疎通、情報共有を可能とする主要窓口の設置が必要</u>
支援体制	<ul style="list-style-type: none"> ◆ <u>継続した運営資金援助</u> ◆ 指導スキルの維持向上のための支援策 ◆ 設備・備品利用に対する支援策 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ <u>地域移行後の活動を定着させるためには、受け入れ団体の運営について、継続的な運営資金の支援が必要</u> ◆ 指導者講習会の案内や指導資格取得のための支援が必要（競技指導における特殊免許取得のための支援策） ◆ 使用施設使用料の減免や予約時の優遇措置を実施
普及活動	<ul style="list-style-type: none"> ◆ <u>県域での広報活動の展開</u> ◆ <u>マスメディアを通じた広報活動の展開</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ <u>県保健体育課、県スポーツ協会の広報誌やホームページに、各競技、各自治体の受け入れ団体の紹介とバナーの掲載</u> ◆ <u>各小中学生へ各競技や各自治体の受け入れ団体の一覧表を配布</u> ◆ <u>県保健体育課が中心となり、地元紙の取材や地元TV局への特番の積極的な打診</u>